

おおぞら



万華鏡との出会い

【沼南会理念】

私たちは、医療・看護・介護のトータルサービスで、地域のみなさまが笑顔でいきいきと人生をおくることができるよう支援します。

基本方針

- ・総合的な医療・介護事業体制を確立します。
- ・高品質で満足度の高い診療・看護・介護サービスを提供します。
- ・使命感を共有し、誇りを持って働ける職場を目指します。
- ・職員の能力開発と自己実現を推進します。
- ・全員参加による健全経営を確保します。

【沼隈病院理念】

私たちは、急性期医療から在宅医療までのトータルケアで、地域のみなさまの健康と安全な生活を支援します。

基本方針

- ・患者のみなさまの権利を尊重し、相互理解に基づく医療を提供します。
- ・地域の中核病院として、近隣の諸機関と連携し、救急から維持期まで一貫した医療サービスを提供します。
- ・情報を共有し、地域完結型医療の実現をめざします。
- ・退院後の生活を視野に入れた、継続した医療を提供します。
- ・チーム医療により、安全で快適な療養環境をつくります。
- ・地域のみなさまの疾病予防と健康づくりを支援します。

【患者のみなさまの権利】

1. 個人の尊厳と安全で安心な医療を平等に受ける権利
2. インフォームドコンセントと自己決定の権利
3. 診療情報の提供を受ける権利
4. プライバシーの保護と機密の保持の権利

【患者のみなさまへのお願い】

1. ご自身の健康に関する正しい情報の提供
2. ご自身の医療への積極的な参加
3. ご自身の治療に必要な診療上のルールの遵守
4. 病院敷地内での禁煙のご協力
5. 医療費の精算への速やかなご協力
6. 他の患者のみなさまの診療に支障をきたさないためのご協力
7. 研修医・医学生・看護学生・実習生などの研修・実習へのご理解とご協力

がん～早期発見にむけて～

みなさん、こんにちは。今回の「教えて!ドクター」コーナーでは、4月1日より、沼隈病院の院長に就任いたしました、太田保先生より自己紹介を兼ねて「がん早期検診の勧め」について話していただきます。



沼隈病院 院長 太田 保

診療日 木曜日

私の専門は外科で、主に消化器外科です。1年前、尾道市民病院を定年退職して、1年間でゆっくりと過ごし、本年4月から当院に赴任いたしました。

まだまだ、仕事に対する情熱、エネルギーは以前とまったく変化はありません。むしろゆっくりした1年間でエネルギーが充電出来る気は充分です。

地域の皆様の健康のために頑張りたいと考えております。



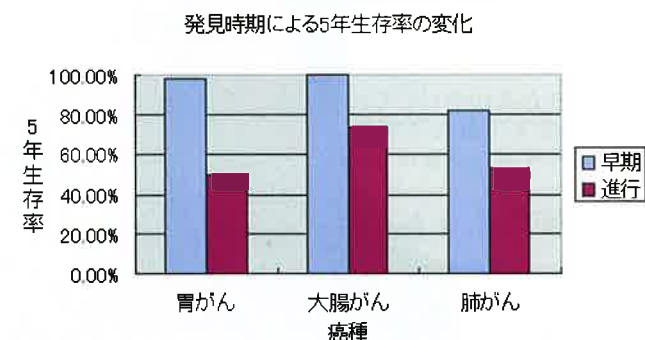
がん早期検診の勧め

早期がんで発見された時と、そうでない時の違いについて、胃がん、大腸がん、肺がん限定してお話しします。

表のように発見後の5年生存率をみると、早期では胃がんが98.6%。大腸がんはほぼ100%。肺がんでは82%です。一方、進行がんでは胃がん50%、大腸がんでは74%、肺がんでは52%です。

早期がんで発見された時は、ほぼ治癒するということになりますが、進行がんでは大きく治癒率が落ちます。手術時間や入院期間、傷の大きさ、治療費にしても大きな差が出てきます。

早期発見のための検査で胃では、胃内視鏡(カメラ)を行います。胃のレントゲン検査は胃カメラに比べ発見率が劣ります。胃カメラは苦しいといわれる人が多いのですが、最近どうしても希望される人は、全身麻酔でしております。しかし、バリウムによる便秘などはありません。検査後は胃カメラのほうが楽です。



大腸では便潜血検査を行います。陽性の人には大腸カメラを行います。一般的には大腸カメラは、2年に1回行うのが良いでしょう。特に肥満、糖尿病のある方は大腸がん罹患しやすい傾向があります。大腸カメラは大腸のレントゲン検査に比べ診断能力が高いです。検診にはカメラが必要です。大腸カメラ自体は痛くなく、胃カメラとあまり変わりません。

肺がんの検診では、胸部のレントゲン検査がまず行われます。しかし、胸部レントゲン検査では小さなものや、心臓と重なった部位のがんなどが見落とされることがあります。診断能力が高いのは肺のCTです。最近はC-Tによる肺がん検診が増えております。最近のC-Tは性能も良くなり、呼吸を止める時間も少なく非常に楽です。

次は、治療です。早期胃がんでは、ごく早期のものは胃の内視鏡で行います。これは患者さんの負担は軽微で、手術は必要ありません。これより少し進行したものは腹腔鏡(おなかの中にカメラを入れ、それを見ながら病変部を摘出します)で行います。これは開腹手術と比べると時間はかかりますが、術後は非常に楽です。患者さんにとっても、以前の開腹手術に比べ、術後痛みも少なく入院期間も短くなります。

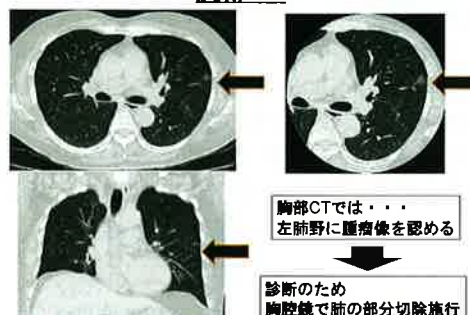
早期の大腸がんも、胃がんと同じような治療となります。私も経験しましたが、術後3日目に寿司を食べ、5日目に退院し、しゃぶしゃぶを食べました。痛みもほとんどありませんでした。

肺の早期がんは胸腔鏡(これは胸の中にカメラを入れます)で行います。これも患者さんの負担は非常に少なく、2・3日で退院できます。術後の痛みも余りありません。

胸部Xp



胸部CT



以上のように早期で見つければ、命がなくなることもありませんし、術後の痛みも、治療による後遺症もほとんどありません。抗がん剤など高額な薬を使う必要はありません。

忙しいとか、怖いとか言わずに検診を受けましょう。

当院ではこれらすべての検査をすることが出来ます。

太田院長、ありがとうございました。

名誉院長就任の挨拶

平成10年4月、《飲み友達・カラオケライバル》であった檜谷理事長ご夫妻のお誘いに甘えて、初めて民間の病院に参り、はや13年。なんとか大過なく今日を迎えられたことをまず御礼申し上げます。当時の職員数は168名、今は丁度倍増。この目覚ましい発展ぶりが一番嬉しいこと。次に嬉しかったことは、2度の日本医療機能評価機構の審査に一発で合格、この時全職員が一丸となって頑張られた姿は忘れられません。21年秋の叙勲で瑞宝中綬章を戴きましたが、その春に厚労省から調査が入り、この病院が公益性の高い病院と判定されたことも推薦の一因となっております。そろそろ草臥れてまいりました折、太田先生のように立派な方にバトンタッチ出来て嬉しく思っております。最後に中国の詩人(沙孟海)の詩文を同世代の方々に贈ります。私の今の心情です。(^ v ^)



沼隈病院 名誉院長 平林光司

診療日 月/水/金曜日

{百歳は古来稀なり 九十は奇とするに足る無し 八十は大いに為すべし 七十は得ること多し}



石巻市雄勝、医療が結ぶ絆

3月11日に起きた東日本大震災から7ヶ月が過ぎました。この7ヶ月の間に私たちができること、関わってきたことをご報告させていただきます。

広島県医師会速報－第2116号－平成23年4月15日 広島JMAT(日本医師会災害医療チーム)第一班報告

広島県医師会では、日本医師会の要請を受け、東日本大震災の被災地への医療支援の目的で、広島JMAT(日本医師会災害医療チーム)第一班(松村誠団長 10名)を編成し、平成23年3月24日より3月28日までの5日間の日程で、宮城県石巻市に派遣した(団員、日程については4/5号で既報)。現地では、3月25日より27日までの3日間、宮城県石巻市雄勝(おがつ)町(人口4,300人、死者・行方不明者約1,000人、避難者1,400人)で、10ヵ所の避難所を中心に医療支援活動を行い、延べ87人を診察した。約半数は高血圧、不整脈などの循環器疾患で、うち1人の心不全患者を救急搬送した。

別人のように明るい表情になったのには、私も含め、皆がびっくりした。

実際、患者の体に直接触れるということ自体が意味を持っており、「手当て」という言葉の真髄に触れた想いであった。

この医療チームは、公式には87名を診察・治療したということになっているが、実は、このような「手当て」をした方を含めると、ゆうに100名以上を治療している。

今後の、被災地復興の闘いは、医療と行政・保健が連携しなければ、遅々として進まない段階に入っている。被災地への復興支援において、県医師会と県が連携し、「オール広島」で、闘っていけることを願っている。

広島県医師会速報－第2120号－平成23年5月25日 宮城県石巻雄勝町水浜地区激励行動の報告 (一部抜粋)

沼隈病院 医師 藤原恵

4月29日から5月1日、雄勝町水浜地区の旧水浜保育所・避難所に対して、激励行動を行った。医師会JMATの第1、2班が医療支援活動を行った避難所である。震災から1ヵ月半以上経過した亜急性期、慢性期という状況を考慮に入れて、内科、循環器科の医師に、整形外科1名、理学療法士2名、音楽療法士1名を加えた編成で訪問した。

水浜地区の被災した旅館に宿泊した。電気はまだ通っていなかったが、私たちの「宿泊」が営業再開の契機になればと考え、また、「現地」に泊まるという行為自体に、被災者全体への激励の意味があると思った。

激励行動への想い

「現地の被災者、特に、一線でがんばっている人にとって、1ヵ月を過ぎたところが、一番疲労がピークになり、しんどくなり始める」という、私自身の阪神大震災の体験があったので、なんとしても、この時期に、現地を訪れ、何かお手伝いをしたいという想いがあった。県医師会のJMATは、第8班で一旦「休止」という形になったが、これまでの活動を途切れなく、次へ「繋いでいきたい」という強い想いもある。今回の激励行動に、快く協力・支援していただいた県医師会事務局の方々に大変感謝し、今後の県医師会の支援活動に、少しでもお役に立てればと思っている。

激励行動の意義

今回の激励行動に対して、現地で「ふんばっている」看護師の方から次のようなメールをいただいた。

「こちらこそ先生方の温かいご支援に感謝致します。今日、全勝旅館にお礼がてら伺ったところ、ご夫婦も大変喜んでいました。今回の先生方の訪問は、避難所の難民にとってここで頑張って生きていく意欲をいただいた気がします！私が一番救われましたけど。本当は先生方に泣きついてもう辛いんだ、辞めたいんだけどどうしていいかわからないんだとすがりたい気持ちでいっぱいでした。でも、3日間先生方の温かいご支援と励ましの言葉、そしてアドバイスに救われました。本当にありがとうございました。～略～」この言葉は、私が想定していた以上に、重みのあるものであった。



沼隈病院からは医師1名、看護師2名、事務1名が参加しています。報告書から沼隈病院藤原恵美医師の記事を紹介します。

沼隈病院 医師 藤原恵

3月27日は、その前日に訪れた地域を中心に、処方箋を発行した人に1ヵ月分の薬を送り届けた。これは被災者に大きな安心を、当面与えたと思う。

特に雄勝町の、湾を見下ろす高台にある水浜保育所には50名以上の住民が避難され、そこでは、自ら被災された看護師が中心となり、みんなの体と心を守っておられた。津波で流された市立雄勝病院の看護師は、「自分の病院で生き残ったのは、訪問看護に出ていた看護師と非番の人しかいない」と、淡々と話しておられた。しかし、そのテキパキとした、明るい仕事ぶりが、被災者の一人ひとりを「繋げている」という感銘を受けた。何か、医療の原点に触れたような気持ちであった。

避難所の被災者の健康状況については、不眠、肩こり、全身倦怠感、めまいなどの症状を訴えられる方が多くおられた。一見「不定愁訴」なのだが、それが、津波が引き起こした大きな被害から来ていることは一目瞭然であった。

前日、指圧、鍼、徒手療法をしてあげた方が、「具合がよくなった」ということで、人気を呼んだ。松村団長の特別の許可をいただき、私は、この日は、指圧、鍼、徒手療法に専念した。特に、心労から、ここ数日、医療巡回チームから渡された睡眠剤や抗不安薬を飲んでも、寝られないという女性が、治療終了後には、

医療・看護従事者へのサポート

今回の激励行動を通じて分かったことは、この時期の支援の対象として、一番重要なものは、この間、自らが被災者であることを「忘れて」、被災地での医療・看護活動にあたってきた医療・看護従事者たちである。

彼ら、彼女たちは、被災地の避難所などの第一線で懸命に働いてきたが故に、1) 自らの家族に対しては、充分なことをしてやれていない、他の人に「出遅れている」という負い目を感じ、2) 避難所などでは、行政などの方向性がはっきりしない中で、被災者たちの「生活の復旧」に向けた新しい動きをとらえ、このコミュニティーを維持していけるのか、日々のさまざまなトラブルにどのように対処していけばいいのか、そうした「苦悩」を抱えてがんばっている。こうした方々への、継続したサポートは重要だと再度認識を新たにしました。

宮城県石巻市雄勝町水浜地区激励行動の報告

沼隈病院 医師 藤原恵

今回（7月）、当院の藤原医師と柏原、喜多村理学療法士、そして、神戸のボランティアの医師、画家の計5名が、雄勝町水浜地区仮設住宅を訪問した。水浜地区への支援は、3月のJMATから数えて、今回で3回目となる。

海の底のガレキの撤去作業もほぼ一段落し、養殖の再開にむけた準備が進んでいた。仮設の近くには、ボランティアの診療所も開設し、本格的復興にむけて、少しずつ前進している。現地では、整形外科の診療、リハビリ等の支援活動を行ない、好評であった。

「雄勝のすばらしい自然とウニ、ホタテなどの海の幸を楽しむに、是非おいでください」とメッセージを預かった。

復興するまでには、時間はかかるであろうが、息の長い支援ができればと思う。

仮設住宅の住民は、明るく、元気で、たくましく、へこたれない姿は印象的だった。



石巻市雄勝を訪れて－平成23年10月10日

沼隈病院 医師 藤原恵

3月のJMATで、石巻市雄勝町に訪れて以来、今回で、4回目である。10月の8日から10日までの連休を利用して、雄勝町水浜を訪問した。

「直面している問題は同じ」、これが、今回の私の率直な感想である。

雄勝の人口の大幅減少（4500人が1000人に）。仮設住宅の多数を占める高齢者の住民。若者の働く雇用場の消失。医療資源の壊滅（市立雄勝病院は津波に飲み込まれ、職員、患者のほぼ全員が死亡）。

東北の抱える問題は、何か遠い地方の問題ではなく、私たちが現在抱えている問題と同じなのではないかと感じる。

今回の訪問では、10月8日の水浜仮設住宅の住民との交流会で、新しく「Oh ガッツ」とう合同会社を立ち上げた伊藤浩光さんの話を伺うことができた。「今、育ての住人というコンセプトで、生産者と消費者を新しい形で結びつけ、なんとか3年で5万人の住人を集め、ネットワークをつくりたい。」「消費者に生産過程に興味を持っていただき、参加してもらおうと考えている」と。

この合同会社の動きに対しては、日本以上に外国からの関心が高いようだ。

もっと多くの話をうかがったのではあるが、この紙面では紹介しきれない。是非とも、インターネットで、「Oh ガッツ (<http://oh-guts.jp/>)」を検索してほしい。また、「育ての住人」への協力もお願いしたい。

東日本大震災への義援金のご協力ありがとうございました。

379,941円を
広島県医師会を通して日本医師会に
送金させていただきました。（6月30日）

引続き、義援金箱を設置しております。
ご協力よろしくお願いします。

イベント報告

えにし

5月の震災復興支援活動時に、水浜地区の海辺で夕方私達が未曾有の光景に圧倒されていると、津波でボロボロになった畳や、家財道具などを、壁と屋根だけが少し残っている家から出され、海辺の廃棄処分場まで、ご夫妻で運ばれていらっしやいました。福井理学療法士が「私に何かできることがありますか？」と声をかけ、同行していたスタッフとご夫妻と一緒に、ご実家の片付けを手伝っていました。5月ということもあり、すぐに陽が暮れ、別れ際にご夫妻の方から、「ありがとう。3年後、ここでお茶を飲もうね!」と声をかけていただきました。それが、伊藤様との出会いでした。

その時に、お互いの身の上話となり、伊藤様が万華鏡作家である事がわかりました。「私が、いつか万華鏡を沼隈へ伝えにいくね!」とおっしゃって頂き、お互いに帰路につきました。

その後も、お互いの近況を確認したりと連絡を取り合っていました。

10月に入り、職場の方へ伊藤様よりお電話をいただきました。「万華鏡!作りに広島へ行くよ!」と……。ビックリ! 10月29日にデイケアで万華鏡教室の開催となり、伊藤様の好意で、今まで見たことの無いような万華鏡も見せていただくことができました。

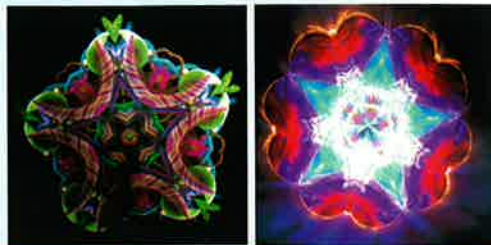
～震災から生まれた“えにし”～

万華鏡を作る時、作った万華鏡を見ている時、利用者やスタッフ、皆自然と、笑顔となっていました。

昨今明るいニュースの少ない時代ですが、万華鏡を見ていると、先の見えないトンネルでも、いつか、どこかでこのような輝きを放っているのでは?と期待させるものでした。ただ、その輝きを作ったのは、もともと無関係な“人”であり、“えにし”である事に大変深い感銘を受けました。

伊藤様、グループ皆様ご協力ありがとうございました。

理学療法士 森田裕治



ICLS コース開催

ICLSとは「Immediate Cardiac Life Support」の略語で、医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。内容は、突然の心肺停止に対する初めの10分間でどのような対応を行うか、適切なチーム蘇生をどの様に行うのかを学びます。

沼隈病院では日本救急医学会の認定コースが定期的に開催され、10月30日に第9回目が申正樹医師を中心に行われました。受講生11名、インストラクター14名が院内外から参加し、シミュレーションを中心とした受講内容で、8時から17時まで行われ、大変好評でした。今後も地域医療の中核施設として救急医療の向上に努めていきます。

一般病棟看護主任 旗手基文



一緒に働きませんか？

沼隈病院では働きながら 看護資格を取得することができます



奨学金制度を設けています。詳しくはお問い合わせください

年齢 は問いません

一緒に働きませんか？

看護学生のときに働いてよかったことは、仕事と学業が両立できるように、沼隈病院が学校や実習先へ送迎等して、バックアップをしていたことです。

卒業してからの心境として、学生の頃から多くの患者さまと関わらせて頂いていましたが、今では免許を取得し今まで以上に責任、自覚を持たなければならないと日々思いながら仕事をしています。

准看護学生から高看護学生を経て現在、一般病棟看護師

家庭と仕事の両立を可能にします。半日は学校に行きます。学校への通学のサポート、生活のサポートも有りますので安心した学生生活が送れます。また、奨学金制度があり、個人のレベルアップと資格取得のバックアップが充実しています。

託児所完備など福利厚生も充実しておりで安心です。

看護学生募集！

会社員から現在、高看護学生

福山市医師会

一般入試

一次試験

平成24年1月29日(日)

願書受付日／平成24年1月16日～1月25日

二次試験

平成24年2月19日(日)

願書受付日／平成24年2月6日～2月15日

尾道市医師会

一般入試

一次試験

平成24年1月21日(土)

願書受付日／平成24年1月6日～1月16日

二次試験

平成24年3月3日(土)

願書受付日／平成24年2月14日～2月27日

子宮頸がん予防ワクチン接種

子宮頸がん予防ワクチンが
無料化されました。

子宮頸がんは乳がんと同様、女性にとって最もかかりやすいがんですが、特に最近では20代から30代の方では乳がんを抜いて、最も多いがんとなっています。

がんの種類も沢山ありますが、予防ワクチンが開発され、それが有効であると証明されたのは子宮頸がんだけなのです。

対 象 : 福山市に住民票のある
中学1年生～高校1年生の女性

費 用 : 無料 (全額公費負担)
通常45,000円のワクチンが無料になります

実施期間 : 2011年1月21日
～2012年3月末

接種回数 : 計3回
(初回、1ヶ月後、6ヶ月後)

申し込み : 受付に直接申し込んでください
電話でも申し込みができます

沼隈病院 084-988-1888
常石医院 084-987-0045

インフルエンザワクチン接種

費用 1回 3,000円 (税込み)

福山・尾道在住の65歳以上の方

1回 1,000円 (税込み)

※高齢者事業対象の方で非課税証明書(予防接種用)を持参の方は無料です。

※福山市在住の方の課税証明は、当院前にある山南公民館でも午前中、申請が可能です。

※60歳以上65歳未満の方で、一定の心臓、腎臓もしくは呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害がある方は補助を受けられる場合がありますのでお尋ねください。

※当院のインフルエンザワクチンには、防腐剤が入っておりません。また、全て国産ワクチンを使用しております。

期間 一般
10月1日～
福山・尾道在住の65歳以上の方
10月1日～1月31日

インフルエンザワクチン接種については、健康保険の適用とはなりません。予めご了承下さい。



沼隈病院

休日乳がん・子宮がん検診

予約受付中 TEL 988-1888

1月15日(日) 日曜日でも
乳がんマンモグラフィー検査を受けられます。



福山市在住の方 福山市検診(1,800円)

尾道市在住の方 尾道市検診(1,000円)

(市の検診には条件がありますので、ご確認ください。)

上記以外の方 5,250円

(保険診療が適用となる場合があります)

詳しくは受付までお問い合わせください。

③名以上のグループでの
受診が可能な場合は 送迎を
行いますのでご相談ください。



職員募集

職場復帰をお考えの方、長いブランクのある方、しっかりサポート致します。託児所完備ですので幼いお子さんがいらっしゃる方も安心して下さい。

看護師、准看護師、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ケアマネージャー、放射線技師、臨床検査技師

詳しくはホームページをご覧ください。



沼南会 経営管理部 084-988-1995

社会医療法人社団 沼南会

沼隈病院 TEL(084) 988-1888

常石医院 TEL(084) 987-0045

介護老人保健施設 ぬまくま TEL(084) 988-1165
訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション(デイケア)

グループホームぬまくま TEL(084) 987-4115

まり訪問看護ステーション TEL(084) 988-0070

まり訪問介護ステーション TEL(084) 988-1600

まり居宅介護支援事業所 TEL(084) 988-0065

社会福祉法人 まり福祉会

まりホーム内海 TEL(084) 986-2255

まりホーム熊野 TEL(084) 959-1166

まりデイサービス内海 TEL(084) 986-2200

求人等の問合せ

沼南会本部事務所 TEL(084) 988-1995

720-0402 FAX(084) 988-1996

福山市沼隈町大字中山南469-3
honbu@shounankai.com



沼隈病院は、救急指定を受けた24時間病院です。急病やケガの場合の初診外来は休日や18時以降も受け付けております。

ホームページ

沼隈病院 検索

